昭和59年版
医師国家試験問題注解

——付・例題——

医師国家試験問題注解

編集委員会編

第 8 分冊

耳鼻喉科学

昭和59年版
医師国家試験問題注解
—付. 例 題—

医師国家試験問題注解
編集委員会編

問題編

第8分冊
耳鼻喉科学

金原出版株式会社
東京・大阪・京都

内部交流
F 179/167　（日5-4/349-8）
医師国家試験問題注解《耳鼻喉科学》
（付・例題）　第8分册 B000100

序

本書の昭和59年版を現役の医学生諸君と，医師国家試験を控えている卒業生諸君にお届けする。本書は今回より問題編と解答・注解編の2分冊とはなったが，合わせてみると何と重いことか，そして何と厚いことか。人は言う，まるで電話帳みたいではないか，と。悪口とも聞こえ，また，本書の意義を高く評価しているようにも響く。

頁を繰るだけで，何となく圧倒されたような気持になる。当然かもしれない。しかし諸君がこれまで読んだ臨床医学の参考書のすべてを積んでみたまえ。何と背の高いことか。本書は，それらの内容をまことに手際よくコンパクトにしたものと考えたらよいだろう。つまり，臨床医学のエッセンスを集約したのが本書であるといっても過言ではないのである。

医師国家試験は，臨床上必要な医学および公衆衛生に関して，医師として具有すべき知識および技能について，これを行う，ことになっている。だから基本的問題のみが出題されてよさそうに思われるが，実際はなかなかそうもいかないようである。いわゆる難問，奇問が少なくなっていることは近年のよい傾向ではあるが，やはり今でもひとひねりした問題がないとはいえない。大学の医学教育をきちんと受けていれば，自然に医師国家試験はパスできるはずであるが，実際はそうでもないところに問題がある。これまでの出題問題をよく検討しておくことはどうしても必要である。また，MCQ方式の問題を解答するには，ちょっとしたコツも必要なようである。こういったことを予じめ会得しておくのと，おかないのとでは天地雲泥の差である。医師国家試験を通過すれば医師になれるのに，不合格であったら，ただの人になることは，諸君が一番よく知っているはずである。だから，医科大学を卒業した以上は，どうしても医師国家試験に合格しなければならない。それがためには，医科大学における講義と実習をまじめに受けた上に，本書のような例題を中心にした実践的訓練をしておくことが重要なのである。

今，医師国家試験は曲り角にきている。厚生省の中に「医師国家試験制度改善委員会」ができて今大いに議論し，検討が行われている。やさしくして合格率を上げるのが目的ではなく，卒前教育を修了した時点で，これから指導医の下で診療に従事してよいか，どうかの資格を認定するための正しい試験になるようにするための作業が行われていると解してよいだろう。

本書には，医師国家試験のためという目的のあることは間違いないが，それとともに，臨床各科の学習のポイントが示されているとみてよい。必ずや諸君のこれからの勉強に役立つといってよいと思う。ぜひ座右において，臨床各科の補習書として役立てるように希望したい。それも，医師国家試験を目前にして利用するのではなく，休暇を利用してじっくり利用してみるというやり方をおすすめしたい。

本書の厚さと重さに圧倒されずに，slow でもよいから steady に，しかも休暇を利用して本書を利用されることを心から望みたい。

昭和58年5月

医師国家試験問題注解編集委員会

各科領域の問題を読まれる方へ

H．耳鼻咽喉科学

1） 耳鼻咽喉科は形態学が複雑であるので，それらの大要を理解しておくことが大切である。たとえば迷路，副鼻腔，喉頭の構造をよく知っておく必要がある。

2） 機能として聴覚，平衡覚，顔面神経の走行と麻痺，嗅覚，味覚などの検査法と病態診断も理解しておくことが大切である。

3） 鼻の機能，嚥下，発声機構も重要である。X線診断も勉強しておくこと。

4） 頭頸部外科としての立場から術式の大要を知っておくべきである。また頭頸部癌の治療方針も勉強しておくこと。

5） 一般に決定された明確な事実，たとえば伝音難聴は骨導が延長し，低音が障害されること，真珠性中耳炎の鼓膜穿孔部位は弛緩部に多いこと，反回神経麻痺は左に多いことなどは明確に記憶すべきであり，これには平常から知識の蓄積をはかっておくべきであり，短期間では不可能と知るべきである。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

耳鼻咽喉科学

Ⅰ　耳……耳

Ⅱ　鼻……鼻

Ⅲ　咽　頭……咽　頭

Ⅳ　口　腔……口　腔

Ⅴ　喉　頭……喉　頭

Ⅵ　気管・気管支……気管支

Ⅶ　食　道……食　道

Ⅷ　顔面・頸部……顔面・頸部

Ⅸ　全身との関連，その他……全身と関連

耳鼻咽喉科

《 耳 》

【問1】 外耳道の説明のうち，**誤っている**のはどれか。

a 外耳道は3.5cmで，その 2/3 は骨部である。
b 耳鏡検査では耳介を後上方に牽引する。
c 外耳道は共鳴腔としての働きがある。
d 耳瘤は骨部外耳道にできやすい。
e 外耳道にふれると咳がでることがある。

【問2】 鼓膜の説明のうち，**誤っている**のはどれか。

a 正常鼓膜は真珠様灰白色である。
b 鼓膜が内陥すると短突起が消失する。
c 弛緩部穿孔は真珠腫にみられる。
d 弛緩部には固有層がない。
e Brünings 拡大耳鏡が用いられる。

【問3】 側頭骨の含気腔に正常の経路で空気が進入する場合，空気の通過する正しい順序はどれか。

a 耳管→乳突蜂巣→鼓室→乳突洞口→乳突洞
b 耳管→鼓室→乳突洞口→乳突洞→乳突蜂巣
c 乳突洞口→乳突洞→耳管→鼓室→乳突蜂巣
d 乳突洞口→乳突蜂巣→鼓室→乳突洞→耳管
e 鼓室→耳管→乳突洞口→乳突蜂巣→乳突洞

【問4】 解剖学的に関連の**少ない**のはどれか。

a つち骨――鼓膜張筋
b あぶみ骨――蝸牛窓
c 半規管――膨大部稜
d 耳　管――口蓋帆張筋
e 内耳道――顔面神経

【問5】 中耳の音圧増強作用のうち，もっとも大きい働きをするのはどれか。

a 乳突蜂巣の含気腔
b あぶみ骨筋の収縮
c つち骨柄とあぶみ骨とのてこ作用
d 鼓膜とあぶみ骨底の面積比
e 鼓膜張筋の収縮

【問6】 次は聴覚機構の説明である。**誤っている**のはどれか。

a 蝸牛内リンパ腔の電位は +80mV である。
b 内リンパのK^+ は外リンパのものよりも少ない。
c 内リンパのNa^+は外リンパのものよりも少ない。
d 基底板の振動は高音程下方回転にみられる。
e 周波数弁別は中枢において完成される。

【問7】 音叉による聴力検査所見のうち，伝音難聴に属するものは次のうちどの組合せか。

(1) Weber 法，患側に偏する。
(2) Schwabach 法，陰性
(3) Rinne 法，陰性
(4) c 音叉，短縮

a (1)，(2)，(3)
b (1)，(2)，(4)
c (1)，(3)，(4)
d (2)，(3)，(4)

【問8】 次の説明のうち，**誤っている**のはどれか。

a オージオメータは 1,000 Hz より検査を始める。
b 気導聴力で40dB 以上の差がある時はマスキングをする。
c 伝音難聴では60dB 以上の閾値上昇はない。
d 内耳伝音は鼓室階から前庭階に伝わる。
e 基底板は上回転ほど広くなっている。

【問9】 伝音性難聴と感音性難聴を区別するために最小限必要な検査の組合せは次のうちどれか。

(1) Békésy 型オージオメータ検査
(2) 骨導オージオメータ検査
(3) 気導オージオメータ検査
(4) 語音弁別検査
(5) 音による方向覚検査

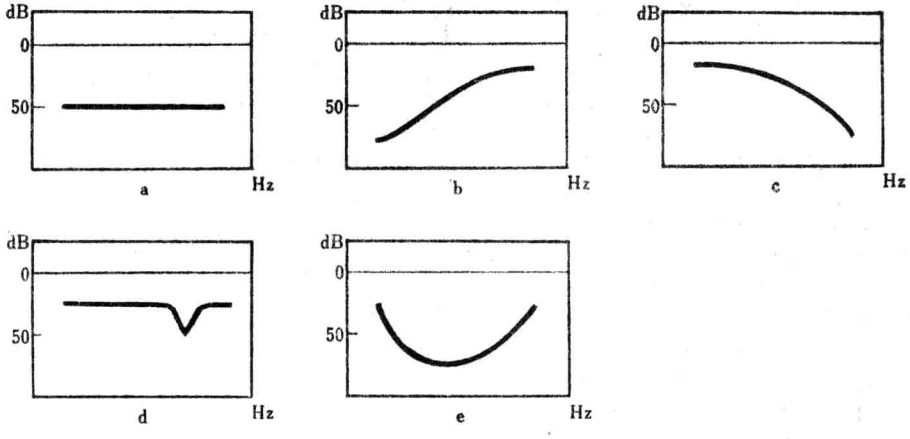
a (1)，(2)
b (1)，(5)
c (2)，(3)
d (3)，(4)
e (4)，(5)

【問10】 次の各種の聴力検査所見のうち，誤っているのはどれか。

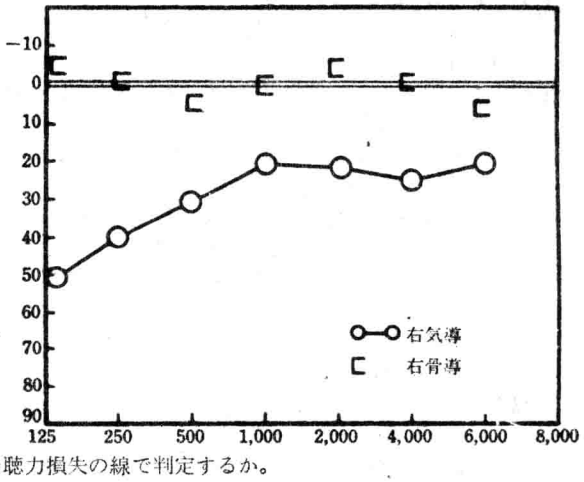
a 内耳性難聴は Fowler テスト陽性である。

b 耳硬化症では Carhart の notch がみられる。
c カナマイ難聴の初期は最高音部（8,000 Hz）の低下がみられる。
d 老人性難聴でまず低音域が障害される。
e メニエール病では低音域聴力が変動する。

【問 11】 下記の各種のオージオグラム（気導）のうち職業性難聴の初期と考えられるのはどれか。



【問 12】 右の図のオージオグラムをみて，もっとも考えられる疾患は次のうちどれか。
a ストマイ中毒　b 音響障害
c 慢性中耳炎　d 老人難聴
e 突発難聴



【問 13】 聴力の社会適応性の有無は，次のうちどの聴力損失の線で判定するか。
a 10dB　b 20dB　c 30dB　d 40dB　e 50dB

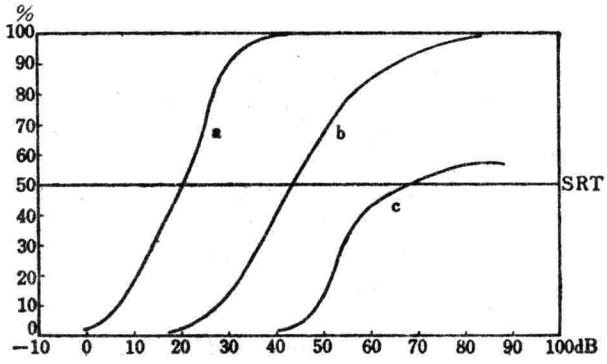
【問 14】 Békésy 型自記オージオメトリーの説明である。誤っているのはどれか。
a 連続周波数で自動的に域値を測定できる。
b 補充現象を測定することができる。
c 固定周波数で測定すると一過性に域値が上昇することがある。
d この現象は後迷路障害に見られることがある。
e 補充現象の存在は鋸歯状の振幅が縮小しない場合である。

【問 15】 次の聴力検査法の説明のうち，誤っているのはどれか。
a 乳幼児聴力検査は音叉を用いるのがよい。
b 感音難聴に語音聴力検査を行うと最高明瞭度が低下している。
c 自記オージオメトリーでは閾値曲線の振幅縮小がみられるとき，recruitment 現象が陽性である。
d Gellé 検査はあぶみ骨の動きをみる検査である。
e Weber 検査は伝音難聴耳側に偏する。

【問 16】 語音聴力検査について，誤っているのはどれか。
a 正常者は最高明瞭度は100%に達する。

b　伝音難聴者の最高明瞭度は100%に近づく。
c　感音難聴者の最高明瞭度は100%に達する。
d　SRT（speech reception threshold）は50%明瞭度におけるdB を表示する。
e　補聴器の適応決定に有力である。

【問 17】 右の図は語音オージオグラムの各種のパターンを示したものである。感音性難聴はa，b，cのうちのどれか。



【問 18】 次は補聴器の適応についてのべたものである。誤っているのはどれか。
a　すべての難聴に有効である。
b　伝音難聴に有効である。
c　中等度難聴（30〜60dB）に有効である。
d　語音明瞭度検査により適応がきめられる。
e　訓練により明瞭度は良くなる。

【問 19】 補聴器のよい適応となるのはどれか。
(1)　耳硬化症　(2)　慢性中耳炎　(3)　突発難聴
(4)　風疹症候群　(5)　耳帯状疱疹
a　(1), (2)　b　(1), (5)　c　(2), (3)　d　(3), (4)　e　(4), (5)

【問 20】 次の説明のうち，誤っているのはどれか。
a　眼振の急速相は中枢性要因が関係している。
b　膨大部稜は角加速度を感受する。
c　回転後の眼振方向は回転と同側に向かう。
d　振子様回転刺激では自律神経症状は少ない。
e　外耳道に冷水注入後，起立させると注入側へ倒れる。

【問 21】 平衡機能検査はどれか。
(1)　Romberg 検査　(2)　ネオメーター検査　(3)　Queckenstedt 検査
(4)　ゴニオメーター検査　(5)　Mann 検査
a　(1), (2), (3)　b　(1), (2), (5)　c　(1), (4), (5)
d　(2), (3), (4)　e　(3), (4), (5)

【問 22】 迷路障害の場合の平衡機能検査の説明である。誤っているのはどれか。
a　自発眼振はFrenzel の眼鏡をかけて観察するとよい。
b　注視眼振では，眼振の方向は一定である。
c　頭位眼振では，眼振の方向は一定しない。
d　視運動性眼振では，その開発がよい。
e　足踏検査では，一定の方向へ偏倚する。

【問 23】 次のうち，誤っているものはどれか。
a　温度性眼振検査では左右の迷路機能を別々に検査できる。
b　体温より低い温度の水を外耳道に注入すると反対側へ向かう眼振が起こる。
c　44°Cの温水を外耳道に注入すると同側へ向かう眼振が起こる。
d　眼振の方向は緩徐相の方向で示す。
e　視運動性眼振検査は中枢性病変の診断に有用である。

【問 24】 次の眼振に関する説明のうち，正しいものはどれか。
a　迷路疾患の頭位眼振は方向固定性のことが多い。
b　迷路疾患の自発眼振は患側向きのことが多い。
c　脳腫瘍の頭位眼振は方向固定性のことが多い。

d 不規則な頭位眼振はメニエール病の特徴である。
e 眼振方向優位性（DP）は回転検査によりわかる。

【問 25】 末梢性めまいと中枢性めまいの鑑別診断上誤っているものは，次のうちどれか。
a 末梢性めまいは回転感を伴わず，中枢性めまいは回転感を伴う。
b 末梢性めまいは耳鳴・難聴を伴い，中枢性めまいは伴わない。
c 末梢性めまいは突発性であり，中枢性めまいは持続性である。
d 末梢性めまいは他に脳神経症状を伴わないが，中枢性めまいは伴うことが多い。
e 末梢性めまいの眼振は方向が固定しているが，中枢性めまいでは方向が転換する。

【問 26】 前庭平衡機能検査について誤っているのはどれか。
a めまい感を伴う自発眼振は末梢前庭障害の徴候である。
b 遮眼書字検査で一方向に偏書するのは中枢性障害の所見である。
c 眼振電図（ＥＮＧ）は角膜網膜電位差の記録である。
d 回転後眼振は回転方向と反対向きに現れる。
e 方向優位性（ＤＰ）は冷温交互試験に関する用語である。

【問 27】 次の説明のうち，誤っているのはどれか。
a Schüller 法は中耳疾患，含気蜂巣の観察に適している。
b Stenvers 法は，錐体尖端，内耳道の観察に適している。
c 急性中耳炎の含気蜂巣の発育は良い。
d 慢性中耳炎の含気蜂巣の発育は良い。
e 真珠腫では輪郭の明らかな円形の透明像がみられる。

【問 28】 次の組合せのうち，正しいのはどれか。
a 袋耳――外傷の後遺症　　b 耳垂裂――ウイルス感染症
c 耳癤――骨部外耳道の炎症　　d 耳血腫――良性腫瘍
e 耳真菌症－アスペルギルスの寄生

【問 29】 次の所見は鼓膜が内陥した場合の所見である。誤っているのはどれか。
a つち骨短突起の突出　　b つち骨柄の垂直位　　c 光錐の変形および消失
d 鼓膜の異状ひだの出現　　e 漏出液線がみられることがある。

【問 30】 鼓膜内陥の所見がみられた場合，次のどの疾患を考えるか。
a 急性中耳炎　　b 滲出性中耳炎　　c 真珠腫性中耳炎
d 急性乳様突起炎　　e 耳硬化症

【問 31】 平手打ちによって鼓膜穿孔が起こった。もっとも関連の深い組合せは次のうちどれか。
(1) 弛緩部穿孔　　(2) 緊張部穿孔　　(3) 心臓型穿孔
(4) 紡錘形穿孔　　(5) 穿孔縁出血
a (1), (3), (5)　　b (2), (4), (5)　　c (2), (3), (5)
d (1), (4), (5)　　c (1), (2), (3)

【問 32】 次は鼓膜穿孔所見と診断名との組合せである。誤っているのはどれか。
a 紡錘形，先鋭穿孔――鼓膜外傷　　b 中心性穿孔――インフルエンザ中耳炎
c 多発性穿孔――結核性中耳炎　　d 弛緩部穿孔――真珠腫性中耳炎
e 辺縁部穿孔――真珠腫性中耳炎

【問 33】 次の中耳炎の説明のうち，誤っているのはどれか。
a 急性中耳炎は経耳管感染により起こる。
b 慢性化膿性中耳炎では含気蜂巣の発育が悪い。
c 中心性穿孔は悪性である。
d 鼓膜緊張部の全欠損では約 40dB の聴力損力がある。
e 上鼓室型では辺縁性穿孔がみられる。

【問 34】 次の説明のうち，誤っているのはどれか。
a 耳管の長さは3.5cmで，軟骨部が2/3である。
b 成人の耳管は太く，短く，水平に近く位置する。
c 小児の滲出性中耳炎はアデノイドが原因となることが多い。
d その治療には Politzer 法などがある。

e Weber 法は患耳に偏する。

【問 35】 耳管通気法の目的について，正しいのはどれか。

(1) 鼓膜小穿孔の診断　(2) 耳管峡部（isthmus）の拡大
(3) 鼓室内陰圧による障害の治療　(4) 耳管・鼓室内貯留液の診断

a (1)，(3)，(4)のみ　b (1)，(2)のみ　c (2)，(3)のみ
d (4)のみ　e (1)～(4)のすべて

【問 36】 耳管狭窄症の原因となりうるのはどれか。

(1) 舌扁桃肥大　(2) 急性鼻炎　(3) アデノイド　(4) 咽頭角化症

a (1)，(3)，(4)のみ　b (1)，(2)のみ　c (2)，(3)のみ
d (4)のみ　e (1)～(4)のすべて

【問 37】 次の所見のうち，乳様突起炎の診断には，どの組合せがよいか。

(1) 膿性耳漏　(2) 骨部外耳道の後上壁の腫脹　(3) 耳介牽引痛
(4) 耳介下方圧排，聳立　(5) 乳突蜂巣の陰影（レ線）

a (1)，(2)，(5)　b (1)，(2)，(4)　c (2)，(3)，(5)
d (2)，(4)，(5)　e (1)，(3)，(5)

【問 38】 純膿性の悪臭耳漏，伝音性難聴，鼓膜弛緩部穿孔などを呈する耳疾患は次のうちどれか。

a 急性化膿性中耳炎　b 慢性カタル性中耳炎　c 慢性癒着性中耳炎
d 慢性化膿性中耳炎　e 真珠腫性中耳炎

【問 39】 次の疾患は中耳炎による合併症として起こることがある。そうでないのはどれか。

a 脳膿瘍　b 咽後膿瘍　c 錐体尖端炎
d 静脈洞周囲炎　e 脳膜炎

【問 40】 耳性頭蓋内合併症はどれか。

(1) 静脈洞炎　(2) 錐体尖炎　(3) Bezold 膿瘍
(4) 脳膿瘍　(5) 化膿性髄膜炎

a (1)，(2)，(3)　b (1)，(2)，(5)　c (1)，(4)，(5)
d (2)，(3)，(4)　e (3)，(4)，(5)

【問 41】 次は鼓室成形術の適応と術式である。**誤っている**のはどれか。

a 耳管通気度が良好でなくてはならない。　b 骨導聴力が低下していてはならない。
c 中耳腔が乾燥していた方がよい。　d 代用鼓膜は人工素材を用いる。
e 正円窓に対しては音に対する遮蔽を行う（Ⅳ型）。

【問 42】 鼓室成形術の**適応にならない**ものは，次のうちどれか。

a 外耳道が閉鎖している。
b 鼓膜がまったく消失している。
c つち骨，きぬた骨，あぶみ骨がすべて消失している。
d 耳管がまったく閉塞している。
e 側頭骨含気蜂巣がまったく発育していない。

【問 43】 中耳炎の手術と**関係のない**のはどれか。

(1) Schüller 法　(2) Wullstein 分類　(3) Frenzel 眼鏡
(4) Carhart の凹み　(5) Trautmann 三角

a (1)，(2)　b (1)，(5)　c (2)，(3)　d (3)，(4)　e (4)，(5)

【問 44】 耳硬化症についてもっとも関連の深い組合せは，次のうちどれか。

(1) 内リンパ水腫　(2) あぶみ骨固着　(3) 鼓室成形術（Wullstein Ⅱ型）
(4) 伝音性難聴　(5) Willis 錯聴

a (1)，(2)，(3)　b (1)，(2)，(4)　c (1)，(3)，(5)
d (2)，(4)，(5)　e (3)，(4)，(5)

【問 45】 家族性腎炎および感音難聴を示すのはどれか。

a Treacher-Collins 症候群　b Waardenburg 症候群　c van der Hoeve 症候群
d Alport 症候群　e Wallenberg 症候群

【問 46】 次は難聴を訴える疾患であるが治療により，もっとも**難治な**ものはどれか。

a メニエール病　b 突発難聴　c ストマイ難聴

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

d 慢性化膿性中耳炎　　e アデノイドによる難聴

【問 47】 聴器毒性を持つのはどれか。

(1) サルバルサン　(2) コンドロイチン硫酸　(3) 四エチル鉛　(4) カナマイシン

a (1), (3), (4)のみ　b (1), (2)のみ　c (2), (3)のみ

d (4)のみ　e (1)〜(4)のすべて

【問 48】 次は感音難聴（神経難聴）である。誤っているのはどれか。

a 風疹による難聴　b 耳硬化症　c 老人性難聴

d 騒音難聴　e カナマイシンによる難聴

【問 49】 次の薬剤のうち，聴器毒性のないのはどれか。

a ネオマイシン　b アスピリン　c キニーネ

d エタクリン酸　e セファロスポリン

【問 50】 ストレプトマイシン難聴の説明のうち，誤っているのはどれか。

a 難聴が始まる前に耳鳴を訴えることが多い。

b 8,000ヘルツが急墜する。

c ストレプトマイシンは前庭神経系障害を起こさない。

d ダイハイドロストレプトマイシンは蝸牛神経系を障害する。

e 難聴の発症には個体差が著しい。

【問 51】 次の疾患は両側性難聴を示すことが多い。誤っているのはどれか。

a 聴器毒による難聴　b 老人性難聴　c メニエール病

d 家族性進行性難聴　e 騒音難聴

【問 52】 次の説明のうち誤っているのはどれか。

a 突発難聴は治癒しない。

b 騒音難聴は C^5-dip を示す。

c ストレプトマイシン難聴は腎機能不全の人に起こりやすい。

d 内耳障害は外有毛細胞に始まることが多い。

e コルチ器病変があると recruitment 現象がみられる。

【問 53】 次は Ménière 病の難聴についての説明である。正しいのはどれか。

a 初期は中低音が障害されることが多い。　b この聴力障害は回復しない。

c 発作を重ねると難聴の進行は止まる。　d recruitment も陰性となる。

e この難聴は両側性である。

【問 54】 次は Ménière 病の特徴を示している。誤っているのはどれか。

a 反復するめまい発作　b 難聴，耳鳴，耳閉塞感　c 意識障害

d 内リンパ水腫　e レクルートメント現象陽性

【問 55】 Ménière 病のめまい発作の説明のうち，誤っているのはどれか。

a 回転性のことが多い。　b めまい発作は平均1〜2週間持続する。

c 患耳を下にすると頭位眼振をみることが多い。　d 自律神経症状を伴うことが多い。

e 意識障害はみられない。

【問 56】 メニエール病に関連して正しいのはどれか。

(1) リクルートメント現象　(2) 内リンパ水腫

(3) あぶみ骨固着　(4) 後迷路性難聴

a (1), (3), (4)のみ　b (1), (2)のみ　c (2), (3)のみ

d (4)のみ　e (1)〜(4)のすべて

【問 57】 次の説明のうち，誤っているのはどれか。

a 卵形嚢と球形嚢の平衡斑は互いに直角に位置している。

b 耳石膜は直線加速度を感受する。

c 動揺病の症状は自律神経の病的現象である。

d 動揺病は学童高学年の女子に多い。

e 動揺病は乳幼児に多い。

【問 58】 次の説明のうち，誤っているのはどれか。

a 側頭骨骨折には縦骨折が多い。

b 側頭骨横骨折は顔面神経麻痺を伴うことがある。
c S状静脈洞血栓症は Queckenstedt 陽性である。
d 内耳の病理変化は蝸牛迷路より前庭に起こりやすい。
e Lermoyez 症候群はめまい発作時に耳鳴，難聴が寛解する。

【問 59】 側頭骨骨折について，**誤っている**のはどれか。
a 顔面神経麻痺は横骨折に多い。
b 耳出血は横骨折に多い。
c 横骨折では聾になることがある。
d 縦骨折では混合性難聴を示すことが多い。
e 自発眼振がみられることがある。

【問 60】 側頭骨骨折について，正しいのはどれか。
(1) 横骨折では顔面神経麻痺を伴うことは少ない。
(2) 横骨折では頸静脈孔症候群がみられる。
(3) 斜骨折では Gradenigo 症候群がみられる。
(4) 縦骨折では伝音系障害を伴いやすい。
a (1)，(3)，(4)のみ　b (1)，(2)のみ　c (2)，(3)のみ
d (4)のみ　e (1)～(4)のすべて

【問 61】 末梢性顔面神経麻痺について，**誤っている**のはどれか。
a Bell 麻痺は治りにくい。
b 神経管圧排術を行うこともある。
c あぶみ骨筋は顔面神経支配である。
d Hunt 症候群は第Ⅷ神経症候を伴うことがある。
e 耳下腺腫瘍の場合には癌を考える。

【問 62】 側頭骨内顔面神経麻痺のうち，もっとも多いのはどれか。
a 中耳手術後　b 頭部外傷　c Bell 麻痺　d 中耳炎　e 腫瘍

【問 63】 顔面神経麻痺の症状のうち，**誤っている**のはどれか。
a 中枢性麻痺では前額部筋肉は麻痺しない。
b 末梢性麻痺では前額部筋肉は麻痺しない。
c 側頭内麻痺では味覚障害が起こる。
d 聴覚過敏が起こることがある。
e 膝神経節の部位が麻痺すると涙分泌障害が起こる。

【問 64】 Hunt 症候群の症状のうち，**誤っている**のはどれか。
a 耳痛　b 顔面神経麻痺　c 舌咽神経麻痺
d 難聴　e 耳介帯状の水疱

【問 65】 聴神経腫瘍の特徴を示すにはどの組合せがよいか。
(1) 進行性難聴　(2) recuitment 陽性　(3) 前庭機能廃絶
(4) 内耳道拡大　(5) 放射線治療の適応
a (1)，(2)，(3)　b (1)，(2)，(4)　c (1)，(3)，(4)
d (1)，(3)，(5)　e (1)，(4)，(5)

【問 66】 聴神経鞘腫の説明のうち，**誤っている**のはどれか。
a 難聴，耳鳴にはじまる。
b ほかの脳神経症状は伴わない。
c recruitment 現象陰性である。
d 患側の温度眼振が低下する。
e Stenvers 法で内耳の拡大をみることがある。

【問 67】 耳痛について**誤っている**のはどれか。
a 耳痛に関係ある神経は三叉神経，舌咽神経および迷走神経の分枝である。
b 耳以外の疾患でも耳痛を訴えることがある。
c 外耳炎では耳介を牽引すると耳痛が増強する。
d 急性中耳炎では鼓膜が穿孔し耳漏を認める様になってから耳痛が強くなる。
e 慢性中耳炎の急性増悪時には耳痛は増強する。

【問 68】 鼓膜の陥凹を示す耳鏡所見はどれか。
(1) ツチ骨短突起が突出してみえる。
(2) ツチ骨柄が短かく，かつ水平にみえる。
(3) 光錐が短かく点状にみえる。
(4) 鼓膜に異常ヒダがみえる。
a (1)，(3)，(4)のみ　b (1)，(2)のみ　c (2)，(3)のみ
d (4)のみ　e (1)～(4)のすべて

【問 69】 乳様突起単削開術に必要なエックス線写真の撮影法はどれか。

a Waters 法　b Schüller 法　c Stenvers 法
d Rhese 法　e Towne 法

【問 70】 聴力検査について**誤っている**組合せはどれか。

a C⁵dip ――――――――音響外傷
b 聴覚補充現象陽性――――鼓室硬化症
c 一過性閾値変動（TTS）――聴神経腫瘍
d 気導骨導差（A-B gap）――慢性中耳炎
e 語音明瞭度低下――――Ménière 病

【問 71】 前庭平衡機能検査で正しいのはどれか。

a 回転後眼振は回転と同方向に現れる。
b 温度刺激検査では温水の注入側に向かう眼振が現れる。
c 迷路性眼振は Frenzel 眼鏡をかけるとみえ難くなる。
d 電気眼振記録法（ENG）では閉眼時の眼振を記録できない。
e 頭位眼振は頭の位置をすみやかに変換する動きによって誘発される。

【問 72】 聴神経腫瘍の診断上**有用でない**検査所見はどれか。

a インピーダンスオージオメトリー――アブミ骨筋反射の異常
b 自記オージオメトリー――――聴覚の一過性閾値変動（TTS）
c 温度眼振検査――――――半規管機能低下（CP）
d 側頭骨エックス線断層撮影――――乳突洞拡大
e 三叉神経検査――――――角膜反射の低下

【問 73】 急性中耳炎の慢性化する原因として考えられるのはどれか。

(1) 緑膿菌の混合感染　(2) 側頭骨の気胞化不良　(3) 急性期の鼓膜切開
(4) 内耳性難聴　(5) 糖尿病

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)　c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4)　e (3), (4), (5)

【問 74】 次の説明は耳管の臨床解剖について述べたものである。**誤っている**のはどれか。

a 耳管骨部の内方には内頸動脈，下方には頸静脈上球がある。
b 耳管の開閉に関係する筋肉は口蓋帆張筋と口蓋帆挙筋である。
c 耳管隆起と咽頭後壁との間の谷を Rosenmüller 咽頭陥凹という。
d 耳管軟骨は円管状である。
e 耳管腔の粘膜は多列線毛上皮である。

【問 75】 耳閉塞感と難聴の現れる疾患はどれか。

(1) 先天性外耳道閉鎖症　(2) 耳管狭窄症
(3) 突発性難聴　(4) 耳硬化症

a (1), (3), (4)のみ　b (1), (2)のみ　c (2), (3)のみ
d (4)のみ　e (1)～(4)のすべて

【問 76】 Bell 麻痺の予後判定に役立つのはどれか。

(1) ウイルス抗体価　(2) ティンパノグラム　(3) 神経興奮性検査
(4) 筋電図　(5) 聴力検査

a (1), (2)　b (1), (5)　c (2), (3)　d (3), (4)　e (4), (5)

【問 77】 平衡機能検査につき正しいのはどれか。

(1) 内耳機能障害に出現する自発眼振の方向は注視する方向に向かう。
(2) 圧迫性眼振は鼓膜穿孔の大きい慢性中耳炎に出現する。
(3) 聴神経腫瘍は温度性眼振検査で管麻痺（CP）を示す。
(4) 視運動性眼振検査は中枢神経疾患の診断に役立つ。
(5) 回転後の眼振は回転方向と逆向きに出現する。

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)　c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4)　e (3), (4), (5)

【問 78】 Ménière 病につき正しいのはどれか。

(1) 発症は発作性で反復性である。
(2) 発作の激しい時は意識障害を伴う。
(3) 進行すると温度眼振検査で眼振方向優位性（DP）を示す。
(4) 初期は低音域障害型の難聴である。
(5) グリセロール内服により一過性聴力変動が起こる。

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)　c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4)　e (3), (4), (5)

【問 79】 聴力検査につき正しいのはどれか。

(1) 自記オージオグラムの鋸歯状波の振幅縮小は補充現象陽性を示す。
(2) 気導聴力と骨導聴力とを比較すれば迷路性・後迷路性の難聴を鑑別できる。
(3) 陰影聴取（shadow hearing）の現象は一側耳に耳鳴の強い場合に起こりやすい。
(4) 語音弁別能（語音明瞭度）は正常人では 100 %に達する。
(5) 聴神経腫瘍の患者では一過性閾値上昇が現れる。

a (1), (2), (3)　b (1), (2), (5)　c (1), (4), (5)
d (2), (3), (4)　e (3), (4), (5)

【問 80】 一側の感音難聴を示すことが多いのはどれか。

(1) Ménière 病　(2) 内耳梅毒
(3) 職業性難聴　(4) ストレプトマイシンの筋注
(5) 流行性耳下腺炎（mumps）

a (1), (2)　b (1), (5)　c (2), (3)　d (3), (4)　e (4), (5)

【問 81】 中耳炎より内耳感染を起こす経路として正しいのはどれか。

(1) 水平半規管　(2) 蝸牛小管
(3) 蝸牛窓　(4) 前庭窓

a (1), (3), (4)のみ　b (1), (2)のみ　c (2), (3)のみ
d (4)のみ　e (1)〜(4)のすべて

《 鼻 》

【問1】 次の説明のうち，正しいのはどれか。

a 中鼻甲介には海綿叢がある。
b 下鼻甲介には腺が少ない。
c 副鼻腔は外気の湿度を感ずる。
d 副鼻腔炎の場合には三叉神経（第2枝）の領域に放射痛（referred pain）が起こることがある。
e 下鼻甲介は摘出してもよい。

【問2】 次の説明のうち，**誤っている**のはどれか。

a 前部副鼻腔群は中鼻道より発生する。
b 後部副鼻腔群は上鼻道およびその後上部より発生する。
c 乳幼児の副鼻腔は良く発達している。
d 嗅上皮は嗅裂の天蓋にある。
e キーゼルバッハ部位は鼻中隔の前下方にある。

【問3】 鼻腔粘膜の線毛運動について，**誤っている**のはどれか。

(1) 鼻腔の前半部と後半部とでは運動の方向が逆である。
(2) 線毛の表面には通常，粘液層が存在する。
(3) 鼻腔を洗滌すると，線毛運動は低下する。
(4) 線毛運動は感染予防の働きに関与している。
(5) 鼻前庭部では線毛運動が盛んである。

a (1), (2)　b (1), (5)　c (2), (3)　d (3), (4)　e (4), (5)

【問4】 次の説明のうち，**誤っている**のはどれか。

a 上顎洞は三叉神経第2枝が分布する。
b 翼口蓋神経節は中鼻甲介の後端近くにある。
c 鼻腔の加湿作用は少ない。
d 中鼻道の粘液の流れは後鼻孔へ向かう。
e 鼻閉があると閉鼻声となる。

【問5】 次の副鼻腔の自然口は中鼻道に開いている。**誤っている**のはどれか。

a 前頭洞　b 上顎洞　c 前部篩骨洞　d 後部篩骨洞

【問6】 鼻の検査法のうち，**誤っている**のはどれか。

a 第1頭位では下鼻甲介，総鼻道などがみえる。
b 第2頭位では中鼻甲介，中鼻道などがみえる。
c 後鼻鏡検査では下鼻道はみにくい。
d 上顎洞穿刺には Schmidt 探膿針を用いる。
e Fränkel 検査法では鼻涙管がみえる。

【問7】 鼻腔気流について，正しいものはどれか。

a 吸気は鼻腔天蓋に向かい，弧を描いて後方に達する。
b 吸気は前鼻孔で渦を描いてから，後方に達する。
c 吸気は下鼻道を直線的に進み，後方に達する。
d 呼気は下鼻道を直線的に進み，前方に達する。
e 副鼻腔内の空気は呼吸ごとに交換される。

【問8】 次の説明のうち，**誤っている**のはどれか。

a Waters レ線検査法は前部副鼻腔の観察によい。
b 前頭洞の発育は個体差が著しい。
c 小児の突発性1側性悪臭鼻漏は異物を疑う。
d 成人の第2小臼歯，第1大臼歯は上顎洞底に接する。
e 鼻茸は良性腫瘍と考えられている。

【問9】 急性に悪臭ある鼻漏を訴え始めた。もっとも考えられる疾患はどれか。

a 上顎癌　b 急性鼻炎　c 歯性上顎洞炎
d 急性前頭洞炎　e 急性蝶形洞炎

【問10】 一側の眼球が外下部に突出している。考えられる疾患はどれか。ただし鼻腔には出血性鼻漏がみられない。

a 前頭洞癌　b 上顎癌　c 術後性頬部嚢腫
d 脳ヘルニア　e 前頭洞粘液嚢腫

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com